



(平成2年11月)

No. 5

発行

兵庫県精神障害者家族連合会

南野三郎

事務局 〒652 神戸市兵庫区湊川町3-13-20

TEL 078-521-1367

第5号の発行にあたって

兵家連・副会長 山本 春義

昭和63年9月、兵家連誌・創刊号を発行いたしましたから満2年、この度、第5号をお届けできる運びとなりました。

去る、昭和59年の近畿ブロック家族会指導者研修会の開催いらい、昭和63年9月には、精神障害者リハビリテーション国際セミナーの開催を引き受け盛会裡に無事終了し、我が、兵家連も全国的にその存在を知られるようになってまいりました。

今年6月には、兵家連20周年記念大会を兵庫県民会館にて開催し、予想を超える参加者に關係者はあわてたり、驚いたり、今にして思えば懐かしい想い出となりました。

また、兵庫県のご援助のもと、家族会指導者研修会を県内4ブロックの地区で計画しまして、神戸地区は7月に、姫路・西播磨地区は9月に開催が終了し、11月には但馬地区、来春2月に阪神地区で開催して、平成2年度の研修を終わる予定になっております。

この研修会に参加の方々には、各地区の家族会に於て指導的な活動と、地域社会への啓蒙・啓発活動に努力して頂くことを期待しまして、兵家連が計画実施いたしております。

昭和63年の国際セミナーの開催いらい、全国的規模の行事を引き受け実践できる体制を整えてまいりました。“兵庫県精神障害者家族連合会”が、さらに発展し活動の活力を伸ばせるように、会員並びに關係の方々のご支援、ご指導を賜りますようお願いしまして、兵家連誌・第5号発行のご挨拶といたします。

保健所講演会に出席して

兵家連・副会長 宇野 良三

去る、8月26日（日）赤穂保健所で開催の家族の集いに招かれて、家族会の結成に向けてとの要望で、体験談も交え、なぜ家族会と共同作業所が必要か、そして兵家連の活動等をお話しいたしました。

会場から、作業所のことなどについて真剣な質問があり、家族の悩みや要望に切実なものが感じられました。

なお、当日は休日にも拘わらず所長さんを始め多数の職員も出席され、熱心に精神保健に取り組んでおられるご様子を拝見し、大変意を強くした次第です。家族の出席者は40名。

9月12日（水）山崎保健所の家族教室に招かれて、家族会と、共同作業所のお話をしました。あの、グループ討議には所長さんも参加されておられましたが、その積極的なご姿勢には深い感銘を受けました。

会の雰囲気も大変盛り上がり、質問も次々

と出て、ご一緒に頂いた県保健センターの柴田先生の助言のお陰で無事終了しました。

27名の家族が参加されまして、参加者のなかには高齢者の方が多く、80才を過ぎたお父さんが杖をついて、バスと電車を乗り継ぎ一時間半以上もかけて出席されていました。病気の子を抱えた親ごさんの、ひたむきな気持ちに胸を打たれる思いがしました。

“未組織家族の集いに参加して思ったこと”

県内には、まだまだ大勢の障害者とその家族が、情報も学習の機会の少ない不便な地域で、差別と偏見の厚い壁のなかで社会復帰・社会参加の見通しも立たぬまま、悩み続けておられる姿を見て、いま、兵家連が活動している啓発事業と家族会の育成充実の重要性を強く感じた次第です。

明石保健所主催『精神保健担当者連絡会議』に出席して

御影倶楽部所長 西浦 三郎

今年の7月28日、兵家連が神戸市立心身障害福祉センターに於て、県からの委託事業として『神戸ブロック家族会指導者研修会』を開催しましたが、そのとき私が話題提供者を勤めました作業所関係の分科会に、明石保健所からもご参加頂いたのがご縁になって、後日改めて明石保健所から、9月7日に明石で

行われる保健所主催の『精神保健担当者連絡会議』に出席して、共同作業所運営上の問題点などについて話をせよとのお招きを受けましたのでお伺いしてまいりました。

先ず出席しました明石の『精神保健担当者連絡会議』についてですが、その顔ぶれは主催者の保健所を始め、明石病院・明石土山病

院・関西青少年サナトリューム・生村医院などの医療機関の他に、職業安定所・障害者職業センター・福祉センター・社会福祉協議会・商工会議所・明石市福祉部・同市民生活部、それに、家族会を包括した多彩な構成で、県下に先駆けて素晴らしいネットワークを形成されているのに感心いたしました。

また同時に、保健所の指導で地域家族会として「ともしひ会」が結成され、その上さらに最近に至り、家族会運営の共同作業所となる場所も確保できた由で、家族会育成に向けての保健所のご熱意と努力の並々ならぬもの

相談員研修会に参加して

兵家連・理事 前川 博

去る、10月1日～2日の二日間にわたり、近畿ブロック家族相談員研修会が、大阪山西福祉記念会館で開催されました。

今回は、従来の指導者研修会と趣向を変えて、全家連の事業計画に基づき、全国ブロック別の精神保健家族相談員研修会で、近畿各府県連に於ける相談活動の推進と実践的目的をしぼっての研修会が行なわれました。

〔一日目〕各府県連から、百数十名の方が参集し、準備された会場も満場の大盛会で、兵家連から11名が参加いたしました。

始めに、全家連・滝沢事務局長が全家連の事業活動と、研修会の計画及び目的について述べられ、続いて各府県連の活動報告では、宇野副会長が兵庫県に於ける活動の現状についてくわしく報告しました。

最後に「家族相談員の役割について」というテーマで、大阪府精神衛生相談所々長・浅尾博一先生の記念講演があり、先生が患者・

を痛切に感じた次第です。

作業所発足を寸前にした会議でしたので、私は話の焦点を「作業所運営上の問題点」に絞り、①機能・組織面での問題、②財政面での問題、③運営面での問題、④人的資源面での問題と、四つの視点から実例をあげて講演申し上げました。

いずれにしましても、兵家連開催の『家族会指導者研修会』が、こんな形でお役に立ち県下の家族会・共同作業所設立促進の一助を担えたことは何よりも嬉しく感じました。



家族に関わった相談内容と、留意のあり方について大変有意義な話をされました。

〔二日目〕は、シンポジウム形式の研修内容になり、テーマは「精神保健相談の実践の中から」で、各府県連の代表者がそれぞれの県連に於ける相談実践実例を発言し、これに対し4名の先生方の適切な助言を頂きました。

兵庫県より私が発言し、精神保健カードを活用した相談の方法と、年度別の相談実施状況を説明する。又、単位家族会に於いて、家族に関わった相談の実例を報告いたしました。

会場より、私の発言に対して真剣な質問があり、日頃家族が悩みいろいろ試行錯誤している思いの切実なことを私ながらに感じました。自画自賛のようですが、兵家連は家族の相談に関して、他府県にひけをとつてないと自负いたしております。

来年度の近畿ブロック家族相談員研修会は兵庫県に開催決定いたしました。

県保健環境部との懇談について

兵家連作業所部会 西浦 三郎

共同作業所が抱えているメンバーの就労問題その他につきまして、県の担当部課の方にお願いもし、また、懇談もさせて頂きたいと思い、去る10月12日、会長・副会長をはじめ事務局も含めて総勢7名が県庁を訪問しました。担当の地域保健課では、お忙しい中を時間を裂いて頂いて古川係長・田寺担当員らが、「のじぎく会館」の会議室で我々を応接して頂き、且つ熱心に私たちの要望に耳を傾けて頂いて、長時間にわたる忌憚のない意見交換を通じての懇談の場を持つことができました。

当日の懇談の内容につきましては、後日ご報告する機会もあろうかと思いますが、ご参考までに取り敢えず主要な点を概記いたしますと次の通りです。

1、通リハ制度（精神障害者通院リハビリテーション事業）の拡充強化につきましては県側も私たちの意向を充分に理解されて、推

進に努めておられますので、引き続き予算枠の拡大、情報その他を含む職親企業の、ネットワーク作りなどに力を注いで頂くよう特にお願いしました。

2、遅れている県下の共同作業所に対する本年度の助成金につきまして、早急な支給実施をお願いするとともに、来年度以降に関しては、年度上半期中に例え半額でも暫定支給して頂けるよう、支給対策の検討を強くお願しました。

3、来る、12月1日に作業所部会が開催を予定している「作業所交流会」のお話をしましたところ、県下の共同作業所が一堂に会する絶好の機会なので、県の担当課として是非顔を出したいとのご意向でした。

タンミングが合えばこの交流会の席で県の担当課の方から、作業所に対する助成金の詳しいご説明があるのではと思っております。

平成2年度但馬・丹波地区家族研修会

とき 平成2年11月23日（金）（勤労感謝の日）午前10時～午後15時

ところ 公立豊岡病院神経科デイケアセンター

プログラム [第1部]

講 義 10:00～10:50

『家族会の現状と運動方針』

兵庫県精神障害者家族連合会

講 演 11:00～12:10

演 題 『患者の理解と家族の関わり』

講 師 公立豊岡病院神経科医長 高石俊一先生

[第2部]

体験発表 13:00～13:30

グルーピディスカッション 13:40～15:00

指導者研修会を終えて

揖保川病院 家族会々長 久保すゑ子



姫路、西播磨地区での初めての精神障害者家族指導者研修会、いえこの精神障害者の○○会と名のつくものは初めてだと思えます。

さて何から手をつけてよいか、まず実行委員会をどの様な形でするか思案頓首。

色々な意見が出ます、みんな初めてだから誰が実行委員になればよいかさえわからぬままに始めたのです。

県の地域保健課、県保健センター、兵精協と、多田先生と二人で依頼にまわる、みんな協力を約束して下さった、そして参加者の返事を見てびっくりり、予定50名が70名余の回答、これも行政と、病院側の協力の賜です、中には不参加の回答もありこれを今後如何にするかが私達に与えられた課題かと思えます。

当日が思いやられましたが、みんな我が事のように準備万端お手伝いしていただき、お蔭で各講師の先生方も時間通りそれぞれの立場から有意義な講義をしていただき参加者一

同ほんとうに喜んでいただけたのじゃないかと勝手な想像をしております。

最初から私の様なものが委員長としてこの大役が出来るだろうかと懸念しておりましたが皆様方に助けられ、応援者あり「大成功よ」「よかったわね」の声にどんなに嬉しかったことか、どんなに感謝しても足りない一日でした。

同じ障害者をもち悩み続ける家族が少しでも、其の悩める親の指導者として勉強する機会を与えて下さった県当局の方々に対して深甚なる感謝の意を捧げ、今後尚一層のご協力とご無理を申し上げる機会もあろうかと思いますがよろしくお願い申し上げ、私達少しでも其の意に添えるよう今後頑張らなければと願う日々でございます。

句帳より

久山 茎一
—自然は心の象徴であるという
炎天下 蟻をふまずに歩かんと
枇杷を食む臥すほどもなき病癒
うつ愈えしひとの便りに時雨の句
修道女歩幅大きく秋の街を
疾く起きて椿の実をば集めけり

全家連創立25周年記念

全国精神障害者家族大会に出席して

兵家連理事 佐藤 勝美

熊本の街を歩きながら、ふと見上げると、ビルの谷間から、あるいは街路樹の間から天守閣を垣間見ることができた。

兵庫県より、会長始め17名参加する。心の病気にかかった人の医療や社会復帰について話し合う全国精神障害者家族大会が17日から熊本市の県立劇場など4つの会場で始まった。

全国から約千八百人の関係者が参加、同日は分科会が行われ、家族会活動、共同作業所などのテーマで話合った。私と宇野会長が共同作業所の部会に出席。長崎市のぞみ会の高橋会長、愛媛県・大三島町役場の菅保健婦より発言があり、前者は準備活動と資金の捻出（150日分）苦労の話しがあり、後者は、昭和54年から愛媛大学・金沢助教授の指導と、地域の精神病院の協力もとに展開してきたことの報告があった。会場からの意見、質問で私は補助金の交付時期が定まらないための苦労（国、県）、神戸市は要綱の中で7月と10月と交付時期が明示されていることがどれだ

け有難いかを述べ、更に家族会育成の初段では、保健所の立場できめこまかく指導されることは結構だが、早く過保護より脱却するよう指導方に就いて意見を述べ会場より同感の拍手をいただく。

最終日の18日は県立劇場コンサートホールで「精神障害者の社会参加を進めるための支援活動」をテーマに医師や家族の公開座談会が開かれたあと、午後より大会式典が行われ、全家連理事長表彰で神家連の北家族会長の大槻徹子さんが、市最初の家族会発足、共同作業所の設立、地域住民運動反対の中で苦労を重ね、困難を克服し、地域住民の理解を深めるのに貢献ということで、39名の1人として栄ある表彰をうけられた。最後に評論家の俵萌子さんが「朝のこない夜はない」と題して差別について講演された。大会のテーマである「家族のめざめは社会を変える」と言うことで、人権回復と諸制度の樹立に向けて運動を促進しよう。夕暮時熊本をあとにする。

全国精神障害者家族大会に参加して

ひまわり作業所 岡田 早美

秋晴れの10月17日、18日の両日熊本で行われる大会に初参加した。私にとって何十年ぶりの熊本だろう。子どもさえ元気ならば日本中といわず海外旅行にも行けただろうに。しかし私以上に苦しみを味わう我が子の為に何らかの灯を得たくて、新幹線にとび乗りました。会場に着くと、まあこんなに多くの方々が何らかの形でこの病に関わっておられるのかと驚嘆しました。

今回の大会のテーマ「家族のめざめは社会

を変える」本当本当、私達作業所でも問題は同じ。もっと家族が強い関心を持って意見行動し、家族会を盛り上げ社会に向って病の理解を求め、全家連事務局長、滝沢氏の言葉の中に「為政者、関係者である専門家にこの問題をなんとかしてほしいと要求してよいのです」その通りこの大会の主旨も同様です。それと同時にやはり家族も暖かい愛情と犠牲を払ってやらねばと思いました。

過去に苦しんだ家族、現在苦悩の渦におら

れる方々と共に手を携え、障害者の生きやすい社会に変えてやる事がこれからの務めだと強く思う次第です。

最後になりましたが、熊本は未だのんびり

家族会だより

尼家連の発足にあたって

会長 斎賀 嘉寿美

人口50万の工都尼崎市・北保健所の一室で三年前より開いている家族懇談会には、明るい話題は何一つなく、あつまる家族の顔には苦労のシワがきざみこまれている。まさしく泣き笑いの会合であった。でも、そのあいだには保健所のお世話で色々学習をさせて頂き、又、他市の作業所見学をする中から、是非自分たちの力で作業所を作ろうという機運が盛り上がりってきて、家族みなで毎月少しづつのお金を出し合い、1年3ヶ月掛かって42万円になった準備金で、今年3月、文化住宅を借り、同時に市内2番目の北家族会を結成し、保健所のご支援のもとに家族会運営の共同作業所「あすなろ製作所」をオープンすることができました。

開所以来、家族・メンバーともども希望が湧き、家族の指導のもとに、メンバーだけの自主運営で、規律よく、効率よく作業が進められ、仕事も「ともしひ作業所」のご厚意に甘えて途切れることなく続けております。

※週4日作業・通所者：毎日平均15名。

この8ヶ月でメンバーは心身ともに状態がよくなり、10月から職親制度の適用を受け理解ある経営者の会社（自動車部品工場）へ2名が就職しました。

力強い応援と拍手をおしみません。

これからは、先輩の作業所の方々が経験された運営難はさけて通れません。

家族会の会費と一般賛助会員のご援助で、

した所があり方言が耳に残っています。

名水、名城いゝ地で頑張っておられる皆々様、本当にお世話になりました。



助成金の交付される日まで、歯をくいしばって頑張っていきたいと思います。

【尼家連結成】

「ともしひ家族会」との交流が盛んになり又、市当局への要望書提出等の問題で、一緒に行動をとりましょうと、連合会結成の話を持ち上がり、去る、7月1日に準備委員会開催の呼び掛けを行い、40名の家族の参加を得て結成の運びとなりまして、同日、連合会の役員の選出もすんなりと決まりました。市当局への要望書提出のため、担当課職員と話し合い、兵家連の要望事項をもれなくまとめて手渡しました。

尼家連の役員会は、毎月第2日曜日と定め数多くの問題解決のための勉強を始めております。今後、経験豊かな兵家連の先輩家族会の皆様方のご指導を頂き、尼崎の地に既設の作業所はもとより、3番目・4番目の作業所がしっかり根づけるよう努力しておりますのでよろしくお願い申し上げます。



活動日誌

★★役員の動き★★

8月9日：西播磨地区家族会指導者研修会・
実行委員会。揖保川病院にて
宇野副会長他9名出席

8月26日：家族会設立の説明会
赤穂保健所にて。宇野副会長出席

8月31日：神戸地区家族会指導者研修会終了
の伝達。明石保健所にて
山本副会長・佐藤理事出席

9月1日：兵家連理事会 湊川病院にて。
出席者19名

9月7日：精神保健担当者連絡会議
明石保健所にて。西浦理事出席

9月11日：兵家連機関誌4号の発送事務。
湊川病院にて。前川理事他2名

9月12日：山崎保健所での家族の集い。
講師として宇野副会長出席

9月22日：西播磨地区家族会指導者研修会
竜野市総合福祉会館にて。
南野会長他7名出席。参加者80名

9月25日：田淵神経内科診療所往訪。
兵家連誌配布依頼。前川理事

9月25日：平成元年度小規模作業所運営助成
事業の内部監査。湊川病院にて
宇野副会長・西浦理事

10月1～：近畿ブロック家族会相談員研修会
2日 大阪山西福祉記念会館にて。
宇野副会長他10名出席

10月12日：県地域保健課担当者と懇談会。
のじぎく会館にて。
南野会長他4名出席

10月15日：但馬地区家族会指導者研修会・
実行委員会。豊岡病院にて。
宇野・山本両副会長出席

10月17～：全家連・熊本県大会。熊本県立劇
場にて。南野会長他16名参加

10月23日：尼崎市北保健所・あすなろ作業所
往訪。兵家連誌掲載取材。
佐藤・前川理事

心の相談室ご案内

☆診療相談 ☆生活相談 ☆心理相談
☆どなたでも相談できます 予約して下さい
☆相談は無料です 【秘密は厳守します】
(連絡先)

〒 652神戸市兵庫区湊川町3丁目13-20
湊川病院内 兵家連事務局 多田まで

☎ 078- 521-1367

投稿のお願い

短歌、俳句、感想、
意見等どんな内容の
ものでも、又匿名で
もかまいません。
ご投稿、お待ちして
居ります。